

サンタクロースからお菓子のプレゼント 「朝日クリスマス会」開催

朝日地区地域づくり委員会主催のちょっと早めの「朝日クリスマス会」が12月4日、朝日振興センターで開催され、町内の子どもや大人約100名が参加しました。クリスマス会では、サンタさんからお菓子のプレゼントや、ブナりんと一緒にダンスゲームなど子ども達が楽しめる盛り沢山のイベントが行われ、会場は大いに盛り上がりました。また、当日はフリーマーケットも同時開催され、雑貨や子ども用衣類など多くの商品が並び、クリスマス会に訪れた方々に好評でした。



▲サンタクロースからお菓子のプレゼントを受けとる子ども達

年越しそばを自分で打つ!! 「そば打ち講座」開催



▲(写真/只見振興センター) 出来上がったそばを手にする参加者の皆さん

12月11日、只見・朝日振興センターで「そば打ち講座」が行われ、地域の方々が参加しました。

只見振興センターは只見町そば部会の赤塚房子さんと吉津幸子さんが、朝日振興センターは熊倉蕎麦愛好会の目黒義行さんが講師を務めました。講座では、只見産そば粉が使われ、初めて参加する子ども達も上手にそばを打つことができました。

完成したそばを試食した参加者からは「美味しい」という感想が聞かれ、今年は自分で年越しそばを打つと意気込む参加者もいました。

正月を迎える準備 「正月飾り作り講座」開催

恒例の正月飾り作り講座が、只見・朝日振興センターで行われました。12月11日に開かれた只見振興センターの「しめ飾りづくり講座」は、講師に三瓶彰治さん夫妻を迎え、約20名の参加者がイワシバを使った伝統技法を学びました。

12月15日、朝日振興センターでは渡部稔さんを講師に「しめ縄作り体験」が行われました。参加者は、太いものから細いものまで個性あふれるしめ縄を作り上げ、年の瀬に正月の準備をしました。



▲手や足を使って上手に作る参加者の皆さん



▲あめを搾る参加者の皆さん

只見おもしろ学・文化編 「水あめづくり」を学ぶ

只見おもしろ学・文化編「水あめづくり」が12月6日、只見振興センターで行われ、町民12名が参加しました。

体験では三瓶こずえさんを講師に迎え、水あめづくりの説明をいただきました。参加者の皆さんは、「アメシボリ」を体験し、1時間程煮詰めて水あめを完成させた後、パンやヨーグルトなどにかけて試食を行い、東の間の「あめよばれ」の雰囲気を楽しむことができました。

只見町ブナセンター 町外展 「自然首都・只見」展 下郷町で開催

只見町ブナセンターは、只見町の自然や生活文化を町外の人々に伝えるために毎年町外展を行っており、今年は11月9日～20日に下郷町で開催しました。自然や生活文化、ユネスコエコパークの解説パネルとマタビザルなど伝統的な手仕事の日用品を展示した会場には約140名の方が訪れ、ブナセンタースタッフが一人一人に解説しました。只見町に関心の強い来場者も多く、展示物への質問も相次ぎ、関東方面からの方は「次はもう少し足を伸ばして只見町に行きたい」と話されていました。また、13日と19日に、ブナセンタースタッフによる「只見町の自然とくらし」、ブナセンター友の会会員による「『自然首都・只見』に込められた思い」という題の講演会をそれぞれ行いました。南会津地方を中心とした約30名の聴講者と質疑を通して、それぞれの町村の歴史、食文化や風習などの共通点・相違点を話し合うこともでき、町村間の交流を深めることができました。



▲展示会場の様子

ブナセンター講座

12月10日(土) 「豊かな熱帯林が支えるボルネオ先住民の暮らしと文化」 ～ラタンのカゴ編みを通して～



▲会場からの質問に答える竹内氏

熱帯ボルネオ島の先住民は只見町同様、身近な植物を用いて日用品を編む伝統文化を持っています。竹内やよい氏(国立環境研究所)に、彼らの暮らしと熱帯林の生物多様性について講話いただきました。ボルネオ島先住民イバンの人々は、250種もの植物を区別し、木材、食べ物、燃料、薬、儀礼など様々な用途に用いています。また、ラタン(熱帯のツル植物の総称、日本では籐と呼ばれる)を用いて、漁労道具、農作業道具、ザル、運搬用具など日用品を編みます。これらの植物は村所有の原生的な林『プラウ』で採取されますが、開発による伐採が進み、プラウが失われつつある村もあります。町内をはじめ35名の方が聴講され、竹内氏は参加者の質問に丁寧に応対され、充実した講座となりました。